

SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2011	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
3	 芸術写真の精華 日本のピクトリアルイム 珠玉の名品展 3月8日(火)～5月8日(日)	 夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄編 3月8日(火)～5月8日(日)	APAアワード2011展 3月5日(土)～3月20日(日)	 『文楽 冥途の飛脚』 3月5日(土)～4月1日(金)
4			 ベッティナ ランス写真展 3月26日(土)～5月15日(日)	 『イダジツスルーザギフショップ』 4月中旬～
5	 こどもの情景-戦争と子どもたち 5月14日(土)～7月10日(日)	 ジョセフ・クーデルカ「ブラハ」1968 -この写真を一度として見るこの なかつた両親に捧げる- 5月14日(土)～7月18日(月・祝)	JPS展 5月21日(土)～6月5日(日)	 写真提供:T&Kテレフィルム 『モーツァルトの恋』 5月14日(土)～6月3日(金)
6			 世界報道写真展2011 6月11日(土)～8月7日(日)	
7	 こどもの情景-起源(仮称) 7月16日(土)～9月19日(月・祝)	 江成常夫写真展 ～昭和史のかたち～ 7月23日(土)～9月25日(日)	 鬼海弘雄写真展 東京ポートレート(仮称) 8月13日(土)～10月2日(日)	
8			JPA展 10月8日(土)～10月23日(日)	
9	 こどもの情景-現代(仮称) 9月24日(土)～12月4日(日)	 富山直哉展 Natural History(仮称) 10月1日(土)～12月4日(日)		

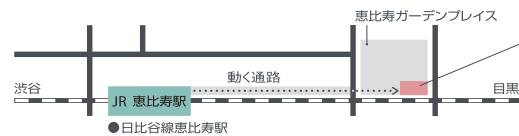
※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日) ※ただし5月2日は臨時開館
2011年3月1日～3月4日、12月6日～12月9日、年末年始(12月29日～2012年1月1日)
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。
詳しくはチケット売り場でおたずねください。



東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099
<http://www.syabi.com>

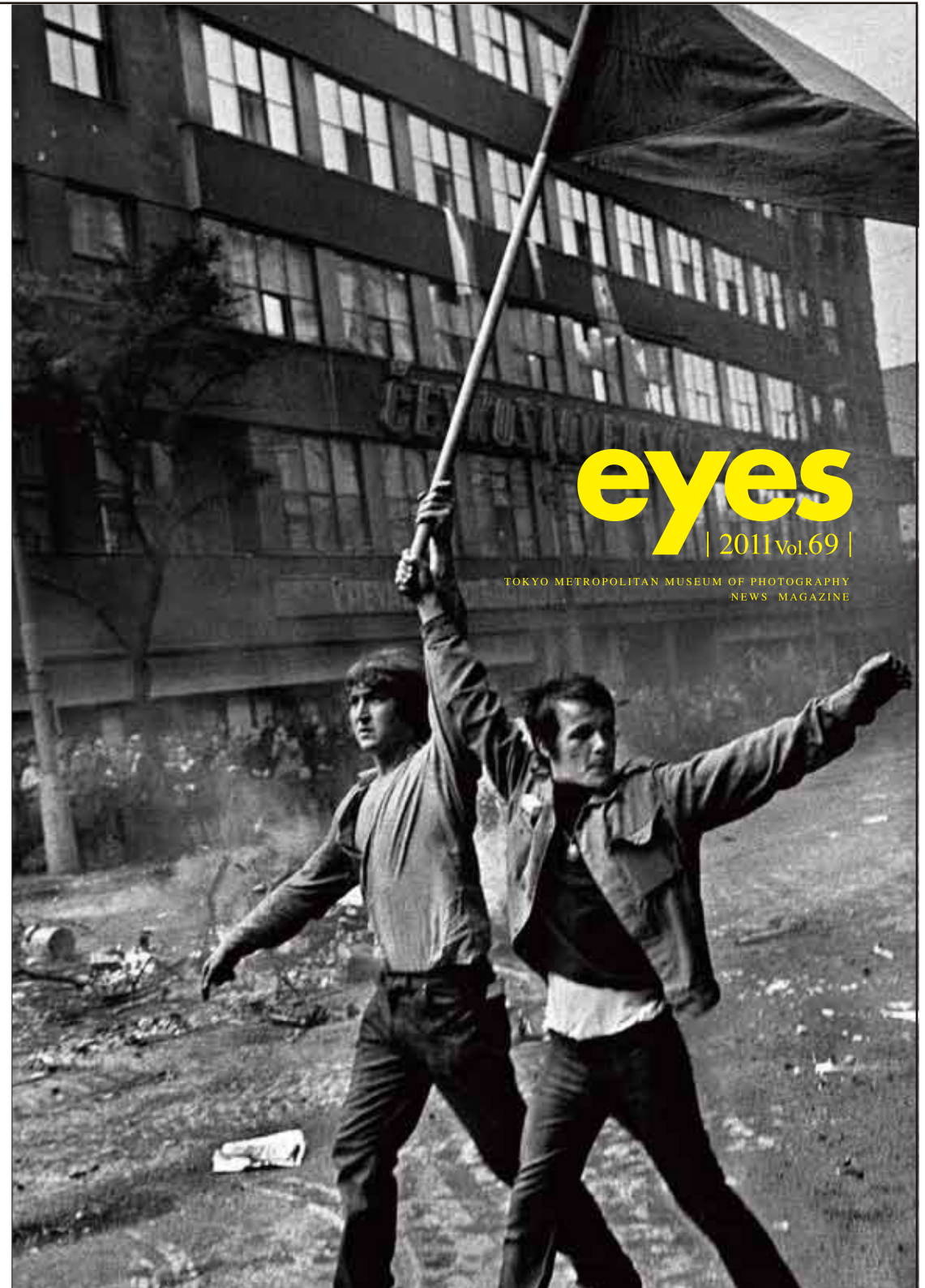
携帯サイトはこちら



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分 ※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ11」69号 ●発行日：2011年3月7日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係
●印刷・製本：JTB印刷株式会社 ●発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2011 ●本誌掲載の記事、写真の無断複製、複製を禁じます。



eyes

| 2011 Vol.69 |

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY
NEWS MAGAZINE

Josef Koudelka Invasion: 68 Prague

Topics

ジョセフ・クーデルカ「プラハ1968」 展覧会準備[パリ・レポート]

ある日突然、自由が奪われる。
クーデルカの写真が捉えた、まぎれもないプラハの現実。

1968年8月、チェコスロヴァキア(現在のチェコ)の自由化政策「プラハの春」が、共産主義政権に抑圧されるという事件が起きました。いわゆる「チェコ事件」です。その一部始終を撮ったのが、伝説の写真家 ジョセフ・クーデルカでした。プラハ市民の抵抗とその結末、そして40年以上たった今も、暗い影を落とす現実。展覧会担当学芸員がパリのクーデルカ氏を訪ね、お話をうかがいました。

2010年秋、展覧会直前打ち合わせのためパリへ赴いた。3年前からヨーロッパへ行く度に調整していたが、毎回、クーデルカは取材に出ていて会うことはできなかった。パリ・フォトの最中なら会えると連絡が来たのは、もう秋になってからのことだった。携帯もPCも持たないクーデルカと連絡をとるのは容易なことではない。つい数年前まで、代表作「ジプシー」をしながら各地を転々として暮らしていたのだ。現在は、パリとプラハを拠点に世界中を飛び回っている。この期を逃すものかと急ぎパリへ渡った。

ミーティングの日、パリ・フォト会場は大混雑だった。19世紀の古写真から現代美術まで扱うこのイベントの人気は高く、世界中から写真ファンや関係者が訪れる。別室で待ち合わせるのかと思っていたら、会場にふらりと本人が現れた。一瞬、緊張で会場の空気が止まった次の瞬間、クーデルカは写真ファンに取り囲まれてしまった。が、飛びぬけて背が高い彼は笑顔のまま何ら動ぜず、皆と話したり、サインをしたりしながら、人垣の向こうにいる私を見つけて、目で合図をした。「君だね、君。会いたかったよ」と、とびきりの笑顔で素早く近づくと、大きな肩ですごい人並みを難なくかき分け、別室へエスコートしてくれた。

打ち合わせ中、ジョセフはご機嫌だった。2008年に「プラハ

1968」を企画し、同書を出版しているアパチャーの編集長メリッサ・ハリスも同席し、これまで巡回してきたニューヨークやプラハの様子を聞かせてくれた。「当時のプラハみたいだね、展示室の入口に街中のグラフィック・サインやポスターを貼りまくったんだ。東京ではどう? 同じようにできるかな? 雰囲気作りだからね、君が好きに貼っていいんだよ。僕も貼ろうかな」等と展覧会の具体的なプランも提案し合った。

打ち合わせ後、インタビューを行った。「僕は航空エンジニアだったから写真は独学でね、プラハの中央図書館によく通ったよ。スイスのアート・グラフィック誌『グラフィス』なんてよく見たな。『ライフ』や『パリマッチ』は見な



血のついた「スヴォボデー・スロヴァ」紙を手にした新聞売り



チェコスロヴァキア・ラジオ局のあるヴィノフラツカー大通り

かったね。僕はジャーナリストじゃなかったし、当時のプラハでは見られなかったからね」「今は『ジプシー』シリーズの新編集に取り組んでるんだ。100点以上の写真集になるから、なかなか大変な作業だね。写真を選んで、シークエンスとか見開き写真を決めたりして。来年には出版だ。」「最新シリーズは8年がかりで取材した採石場のものなんだよ。ほら、日本人にもいたね・・・えーと、そうそう、畠山かな? 彼のものとはちょっと違うけど」と、饒舌に語る彼が沈黙してしまったのは、話が「プラハ1968」当時の内容になった時だった。



プラハに押し寄せるワルシャワ条約機構軍の戦車とプラハ市民

1968年8月21日、運命の日、クーデルカは「人生の中で起こるべき事が全て起きてしまったように感じた」という。当時、ようやく写真家として認められ始め、プラハの個展で初めて「ジプシー」を展示して好評を得た。そしてルーマニアへも足を伸ばしてロマを取材し、揚々とプラハへ帰った。その翌日、街は戦車で埋め尽くされ、運命が大きく転換していく。市民一丸となった1週間の激しい抵抗もむなしく、言論や表現、行動の自由が奪われてしまったのだ。この1週間に何が起きたのかを記録した貴重な写真を西側へ持ち出し、発表することができたからこそ、



2度にわたり、人がいなくなったヴァーツラフ広場——8月22日、23日



フロウビェチーン方面のプラハ工場の裏側

「伝説の写真家 ジョセフ・クーデルカ」が存在するのだが、彼はこの当時のことを語りたがらない。「すでに隔々までチェックしたインタビュー記事があるから、それを読んで。同じ質問には二度と答えたくない」とかたくなに口を閉ざす。冷戦下で「プラハの春」を潰され、共産主義政権の中で統制された生活を強いられた当時の状況は、私達の想像をはるかに超えたものだったろう。1969年にマグナムを通じてこのルポルターージュが世界に配信された時、彼と家族の身の安全のために写真家の名は伏せられたままだった。実際、1984年にクーデルカが名乗りを上げたのは、彼の父が逝去した後のことだ。

プラハ侵攻と同じ頃、東京では学生達が権力に立ち向かっていた。そしてその時、解決できなかった問題と政治が未だに日本を苦しめている。内容がこのことに



ソコロフスカー通り

及んだ時、彼は重い口を開いた。「この写真はもう40年以上前のものだけど、だからこそ出てくる意味があるんだ。この記録は昔のプラハのことじゃなくて、いまも侵略され圧政に苦しんでいる人々に関することなんだよ」。市民一丸となってあらゆる「言葉」と知恵を使い戦車に立ち向かったこの貴重な記録は、現代の日本においても、有効な示唆を与えてくれる。クーデルカは「僕は言葉より写真の方が饒舌だから、写真を選んだんだ」と力強くつぶやいた。

「まだ多くは語れないんだけど、いま地中海沿岸を撮っていて、いずれ考古学的視点でまとめようとしているんだよ。12月にはイスラエルに行くんだ。」と、現在の制作活動の話になると、普段のおしゃべりが止まらないジョセフに戻っていた。筆者もその頃テルアビブにいて、それを伝えるとスケジュールを細々と尋ねられ、予定が合わないことが分かる。「うーん、実に残念だねえ。案内できると思ったのに、また今度だね。じゃあ、まず君が春に東京を案内してね」と茶目っ気たっぷりにウィンクし、来日を約束した。

(東京都写真美術館 学芸員 丹羽晴美)

写真および01-04の図版は全て
Josef Koudelka/Magnum Photos, from the book Invasion: 68 Prague
(Aperture, September 2008)

Josef Koudelka

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビュー-Suicaカード割引

5月14日(土) → 7月18日(日祝)

ジョセフ・クーデルカ「プラハ 1968」

—この写真を一度として見る事のなかった両親に捧げる—

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社
□ 協力：平凡社／マグナム・フォト東京 他 □ 協賛：東京都写真美術館支援会員

当館では、フォト・ジャーナリズム史に伝説として名を刻み、現在もパリとプラハを拠点に世界的な活動を続けるジョセフ・クーデルカの展覧会を開催します。

1938年、チェコスロヴァキア(現在のチェコ)に生まれたジョセフ・クーデルカは、1968年8月に起こったワルシャワ条約機構軍のプラハ侵攻「チェコ事件」時、団結して兵士に抵抗した市民の攻防を写真におさめました。しかし、「プラハの春」と呼ばれる変革運動が終焉を迎え、ソ連が導く共産主義へと「正常化政策」が敷かれる中では、これらの写真は国家から発表を許される記録ではありませんでした。そこで、これらの写真はプラハの写真史家とスミソニアン博物館の学芸員等の手によって秘密裏にアメリカへ持ち出され、当時のマグナム会長エリオット・アーヴィットを経て、翌1969年「プラハの写真家」という匿名者によるドキュメントとして発表。写真家の名を伏せたまま、ロバート・キャバ賞を受賞しました。クーデルカがこの写真の作者であると名乗りを上げることができたのは1984年、彼の父親がチェコで亡くなった後のことでした。

東西に分断された欧州や冷戦下の政治的状況を顕したこれらのエピソードは、20世紀の伝説となり、世界中のジャーナリストたちによって語り継がれています。

本展覧会では、クーデルカが2008年に出版した



チェコスロヴァキア・ラジオ局の防衛
(表紙は部分)

※担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

"Invasion:68 Prague Josef Koudelka" is organized by Aperture Foundation in collaboration with Josef Koudelka, and co-produced with Magnum Photos. This exhibition is made possible, in part, by generous support from Mark and Elizabeth Levine. Additional support provided by HP and Coloredge.

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

3月8日(四) → 5月8日(日)

夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史

四国・九州・沖縄編

一般 500(400)円 学生 400(320)円 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
 協賛：ライオン／清水建設／大日本印刷 協力：日本大学芸術学部／長崎大学附属図書館／長崎歴史文化博物館

幕末～明治期の写真・資料を調査・体系化する初の試み「知られざる日本写真開拓史」。その第3弾となる本展では、四国・九州・沖縄の約2,200

■ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00～
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

■ GW特別フロアレクチャー
 ○4月29日(金・祝) 18:00～ ○5月1日(日)～4日(水・祝) 16:00～
 ○5月5日(木・祝) 11:00～

■ 古典技法ワークショップを開催します。
 ※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

の施設に調査を行い、所蔵が明らかになった未公開作品と資料、そして当館および日本大学芸術学部の貴重なコレクションを合わせて約350点を一堂に紹介します。芸術の「夜明けまえ」といえる写真に秘められた、作品性とドラマをお楽しみください。

上野彦馬 題不詳(上野八重子像)明治35(1902)年
 長崎歴史文化博物館蔵
 上野彦馬の孫娘のポードレイト



3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

3月8日(四) → 5月8日(日)

芸術写真の精華 日本のピクトリアリズム 珠玉の名品展

一般 800(640)円 学生 700(560)円 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
 助成：財団法人朝日新聞文化財団 協賛：資生堂／凸版印刷／東京都写真美術館支援会員

19世紀末に世界を席卷した、写真表現の新たな潮流「ピクトリアリズム(絵画主義)」。本展は和洋の絵画を規範に深化した日本独自のピクトリアリズムに焦点をあて、明治後半から1930年代までに制作された名品120点と貴重な資料を展示。近代化の中で獲得した日本人の感情の軌跡と表現の精華を堪能していただけます。

■ 特別講演会「日本のピクトリアリズム-写真史における位置をめぐって-」
 4月16日(土) 18:30～20:30 1階ホール(定員190名)
 対象:展覧会チケットをお持ちの方(半券可)
 出演者:竹葉文(名古屋美術館 学芸員)、高谷典子(島根県立美術館 学芸員)、
 堀宣雄(福島県立美術館 学芸員)、光田由里(渋谷区松涛美術館 学芸員)、
 金子隆一(東京都写真美術館 専門調査員)
 ※当日10:00より当館1階受付にて整理番号付入場券を配布します。



福原路草「はるな、天神峠」1939年 東京都写真美術館蔵
 福原信三「西湖風景」より1931年 日本大学芸術学部蔵

■ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 16:00～
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

3月26日(土) → 5月15日(日)

ベッティナ ランス写真展

MADE IN PARADISE 女神たちの楽園 セレブたちの美しき幻影と気品

一般 900(720)円 学生 800(640)円 中高生・65歳以上 700(560)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：朝日新聞社 共催：東京都写真美術館 後援：フランス大使館 協賛：野崎印刷紙業株式会社
 協力：エールフランス航空／Numéro TOKYO 企画協力：マトリックス



道端ジェシカ ポートレイト 2007 © Bettina Rheids



ナオミ・キャンベル ポートレイト 1999 © Bettina Rheids

「女性のヌードが撮りたい」。かつて、作家のセルジュ・ブラムリーにカメラを与えられたベッティナ・ランスは、何が撮りたいかと聞かれて、すかさずこう答えたといいます。1978年、初めての被写体にストリッパーを選んで以来、女性をモデルとした作品を数多く発表してきた彼女は一貫して、女性たちが生まれながらにしてまとう華やかさと儚さ、内面から湧き出る美や苦悩、憂いを写し出してきました。その被写体にはマドンナ、シャロン・ストーン、ケイト・モス、ソフィー・マルソー、シンディ・クロフォードなど、映画や音楽、ファッション界で一時を築いた魅惑的な女性たちが名前を連ね、レンズの前で飾り気のない心情や濃厚な人間性を惜しげもなくさらしています。日本からはベルリン国際映画祭で最優秀女優賞を受賞した寺島しのぶ、ファッションモデルの道端ジェシカの2人が、これまでのイメージを覆すかのような一面を見せてくれます。

本展の展覧作品58点の中には、「ベッティナでなければ写せない」とまで言われる女性たちのしぐさや眼差しとともに、本能的かつ自由奔放な「女性」を形づくるベッティナ・ランスの刻印が印されています。それは、あたかも写真家と被写体による一瞬の楽園-PARADISE-のように、見るものを惑わすのです。

▶▶ 被写体となった主なモデルたち

モニカ・ベルッチ、トレーシー・ローズ、アンジェリーナ・ジョリー、ローズ・マクガヴァン、ナオミ・キャンベル、道端ジェシカ、コンリー、マドンナ、ジビル・バック、リブ・タイラー、シャーロット・ランプリング、マリオン・コティヤール、ケイト・モス、カトリーヌ・ドヌーブ、シンディ・クロフォード、レア・セイドウ、クリスティーン・スコット・トーマス、シャロン・ストーン、パネッサ・バラディ、ソフィー・マルソー、寺島しのぶ

同時開催:「Héroïnes」ベッティナ ランス写真展
 3月26日(土)～4月24日(日)(無休、入場無料)
 シャネル・ネクスス・ホール 03-3779-4001

◎お問い合わせ▶▶ 朝日新聞文化事業部 03-5540-7450

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレビューSuicaカード割引

平成23年度東京都写真美術館コレクション展

こどもの情景

戦争と子どもたち 5月14日(土)~7月10日(日)
 起源(仮称) 7月16日(土)~9月19日(月・祝)
 現代(仮称) 9月24日(土)~12月4日(日)

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館 □ 協賛：凸版印刷株式会社 □ 協力：講談社

当館では、年度ごとにひとつのテーマを設定し、収蔵作品約2万5,000点から選りすぐった作品で構成するコレクション展を開催しています。開館10周年記念展「写真はものの見方をどのように変えてきたか」(平成17年度)を皮切りに、「昭和-写真の1945-1989」(平成19年度)、「ヴィジョンズ オブ アメリカ」(平成20年度)、「旅」(平成21年度)、「ポートレイト」(平成22年度)と回を重ねてきた本コレクション展は、写真美術館の専門性と企画力、当館ならではの充実した出品ラインナップ、さらに年間を通じて楽しめる親しみやすさを持ち合わせた展覧会として様々な反響を呼んできました。そして、平成23年度は「こどもの情景」をテーマに、19世紀の写真黎明期から現代までの様々な作品に焦点をあて、5月~12月にかけて3回にわたって開催します。5月から始まる「こどもの情景-戦争と子どもたち」では、フォト・ジャーナリズムの全盛期であった戦中から戦後の時代を中心に、W.ユージン・スミス、ロバート・キャパ、土門拳、石川文洋をはじめとする国内外のドキュメンタリー写真家たちが子どもたちへ向けたまなざしをたどり、優れた写真作品が時代に生きる希望や共感を与えた姿を鮮やかに描き出します。7月からの「こどもの情景-起源」(仮称)では、19世紀という写真黎明期からの写真技法の変革や時代の流れを追いながら、そこに写しだされた子どもたちの姿を追います。そして、9月からの「こどもの情景-現代」(仮称)では戦後から現代までを通して、時代の姿や子どものイメージの変遷を多様な作家の個性とともに紹介します。

「こどもの情景-戦争と子どもたち」

開催期間:2011年5月14日(土)~7月10日(日)



熊谷元一 《コッペパンをかじる》「小学1年生」より 1953年

» 出品予定作家

W.ユージン・スミス、ロバート・キャパ、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、セバスチャン・サルガド、木村伊兵衛、土門拳、林忠彦、濱谷浩、桑原甲子雄、大東元、田村茂、長野重一、石川文洋 ほか

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 16:00~
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

❖ 展覧会関連イベントを予定しています。
 ※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

「こどもの情景-起源」(仮称)

開催期間:2011年7月16日(土)~9月19日(月・祝)

「こどもの情景-現代」(仮称)

開催期間:2011年9月24日(土)~12月4日(日)

林忠彦 《靴みがきの子どもが多かった(上野)》
「カストリ時代」より 1946年ジュリア・マーガレット・キャメロン 《マーガレット》
1860-70年頃

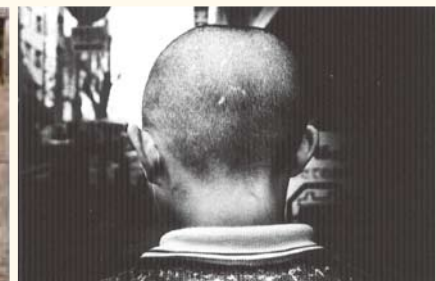
下岡蓮杖 題不詳(母子像) 明治初年 川内倫子 「うたたね」より 2001年



植田正治 「風景の光景」より 1970-80年代

山内道雄 「街」より
東京 阿佐ヶ谷 1985年8月

スティルフリート&アンデルセン 題不詳(子守をする娘たち) 明治初年



森山大道 少年 1979年

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

6月11日(土)→8月7日(日)

世界報道写真展2011

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：朝日新聞社／世界報道写真財団
□ 共催：東京都写真美術館
□ 協賛：キャンノンマーケティングジャパン株式会社(予定)、ティ エヌ ティ エクスプレス株式会社(予定)

恒例となった世界報道写真展が今年も東京都写真美術館で開催されます。前年に世界中で撮影された報道写真を対象にした世界報道写真コンテストが毎年、オランダのアムステルダムで開催され、今年は125の国と地域、5691人の写真家が10万8059点の作品をコンテストに応募しました。応募点数は昨年の10万1960点を上回り過去最高を記録しています。

コンテストの結果、今年の世界報道写真大賞には、南アフリカの女性写真家ジョディ・ビーバー氏がアフガニスタン人の女性を撮影したポートレートが選ばれました。女性の名前はビビ・アイシャさんといい、夫による暴力から逃れて実家にいたところを反政府武装勢力タリバンによって強制的に、逃亡の罪で刑を宣告され、夫によって鼻と耳を切り落とされる「罰」を受けました。アイシャさんはその後、援助機関と米軍によって保護され、現在はカウンセリングと再生手術を受けた米国で暮らしています。撮影にあたってビーバー氏は「尊厳に満ちた女性を撮りたかった」と述べています。

大賞を含め、今年は9部門でのべ56人が入賞を果たしました。世界報道写真展2011は4月のアムステルダムを皮切りに、東京都写真美術館を含む45の国と地域、約100都市を約1年をかけて巡回します。

残念ながら日本からは入賞者はいませんが、「自然」の部には北海道の白鳥が組写真で登場するほか、フォト・エージェンシーである株式会社アフロの青木紘二さんがスポーツ部門の1次審査の審査員を務められました。ワールドカップや冬季五輪も開催された2010年、スポーツ部門の入賞作品も大いに見応えがある出品ラインナップです。



❖ 展覧会関連イベントを予定しています。
※詳細は決定次第、ホームページで発表します。



1	3	4
2	5	6

1) 世界報道写真大賞2010 ジョディ・ビーバー
南アフリカ、インスティテュート・フォー・アーティスト・マネジメント/グッドマン・ギャラリーからタイム誌へ夫の暴力に耐えかねて嫁ぎ先から実家に逃げ戻ったビビ・アイシャ(18)は、逃亡の罪でタリバンの指揮官に刑を宣告され、夫によって耳と鼻を削ぎ落とされた。その後、保護されたビビはカプールの女性保護施設に一時匿われた後、アメリカに渡ってカウンセリングと再生手術を受けた。

2) 「現代社会の問題」の部 組写真1位
エド・オウ カナダ、ゲッティ・イメージズによるルポルタージュ
イエメンに向かう4人のソマリア人難民。雨でぬかるむ道を夜通し歩いてきて、砂漠で仮眠をとっている(=3月15日、ソマリランド)

3) 「ニュースの中の人々」の部 組写真1位
ダニエル・ペレフラク オーストラリア、ゲッティ・イメージズ
パキスタン軍の救援ヘリの風圧に押し流されながらも、先を争って食料を得ようとする洪水の被災者たち(=9月13日、パキスタン、ダドゥ)

4) 「一般ニュース」の部 組写真1位
オリヴィエ・ラバン=マッティ フランス、AFP通信
地震後のハイチで、総合病院の遺体保管所に死体を放り捨てる男性(=1月15日)

5) 「アート&エンタテインメント」の部 組写真2位
ダニエレ・タマーニ イタリア
ルチャ・リブレ(ボリビア・レスリング)のリングで注目を集める、チョリータ(女性レスラー)たち(=6月26日)

6) 「スポーツ」の部 組写真1位 アダム・ブリティ オーストラリア、ゲッティ・イメージズ
シンガポールで開催されたユースオリンピックで、男子飛び板飛び込み3m予選に出場したイギリスのトマス・デイリー(=8月22日)

B1F

5月21日(土)→6月5日(日)

第36回JPS展 日本写真家協会展

□ 一般700円 □ 学生・65歳以上400円 □ 高校生以下無料

1950年に創立した日本写真家協会では、写真文化の振興普及のため、写真愛好家を対象にフォトコンテストを開催し、今年で36回を迎えました。JPS展の出品者からは多くのプロ写真家が生まれています。

◎お問い合わせ≫ 日本写真家協会 03-3265-7453

江成常夫写真展 ～ 昭和史のかたち ～

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館／朝日新聞社 □ 協賛：株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／富士フイルム株式会社／株式会社東京アド／株式会社トーン／光村印刷株式会社 □ 協力：株式会社写真弘社

1936年に神奈川県に生まれ、毎日新聞東京本社の写真記者を経て、1974年よりフリーランスの写真家として活動する江成常夫。太平洋戦争に翻弄された国内外の人々や遺産を克明に記録し続けることで、日本人の現代史に対する精神性を問い続けてきました。

本展では代表作である「鬼哭の島」、「偽満洲国」、「シャオハイの満洲」に、未発表最新作を含む「ヒロシマ」、「ナガサキ」を加えた112点を展覧し、現代日本を生きる私たちの歴史そのものを概観します。

第1部 鬼哭の島

フィリピンのレイテ島、パラオ諸島のペリリュー島、北マリアナ諸島のサイパン島、テニアン島、そして硫黄島、沖縄…。太平洋戦争の惨劇の島を巡り、江成がレンズを通して向かい合った声なき人々とその情景を描き出します。



上) 摺鉢山と南海岸 硫黄島、小笠原諸島 2006年6月
右) 「偽満洲国」より 満洲事変の布告文(吉林省歴史博物館)長春 1989年

第2部 偽満洲国

関東軍が掲げる理想の裏で、おびたしい数の人たちに血と涙を強ひながら消滅した「満洲国」。江成は1981年春から15年間にわたって旧満洲(現・中国東北部)の各地を巡り、日中両国民の精神的落差を経てきた時間の事実を描写しました。



第3部 シャオハイの満洲

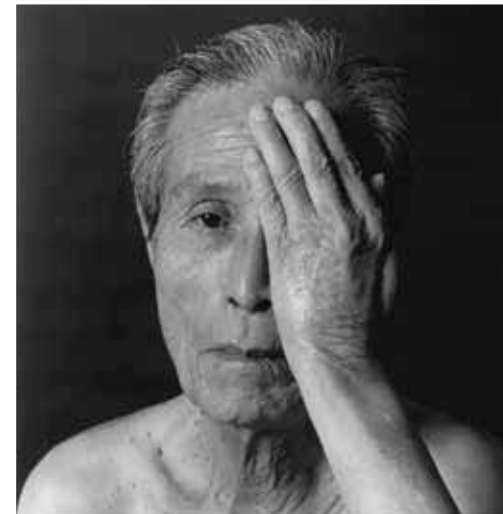
太平洋戦争末期、数千人の戦争孤児が旧満洲に置き去りにされました。1981年、江成は中国に渡り、人民服を纏いながら自己存在を問う孤児たちと対面。この作品には昭和という人間性不在の光景が深く刻まれています。



「満洲国」時代の日本人開拓村 黒竜江省樺南県 1991年

第5部 ナガサキ

医学者・永井隆博士の崇高な心に惹かれ、長崎を撮影してきた江成。消えることのない被爆者の心と体の傷、被爆地のモノとドロが溶け合った物体。その一つひとつが家族の絆と、繰り返してはならない罪業を訴えかけてきます。



第4部 ヒロシマ

戦争孤児と、孤児を生んだ「満洲」と向き合ったからこそ、その地に立つことができたヒロシマ。この作品は太平洋戦争の因果を明示するとともに、癒えることのない被爆者の痛みを通して、人間の罪の深さを語りかけます。



沼田 鈴子(当時21歳) 2009年8月



焼け焦げた「戦時石鹸」 2010年4月



上) 谷口 稜嘩(当時16歳) 2008年7月
下) 爆心地 市内・松山町の地層 2008年10月

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

❖ 展覧会関連イベントを予定しています。
※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

Film 『文楽 冥途の飛脚』

昭和を代表する名人たちの名演が、デジタルリマスター版でスクリーンに甦る！

日本が誇る総合舞台芸術、人形浄瑠璃の最高峰『冥途の飛脚』を、日本文化に深い造詣と共感を持つマーティ・グロス氏が監督。昭和を代表する名人・人間国宝たちの至芸を約1時間半に凝縮した幻の映画作品「文楽 冥途の飛脚」を、オリジナルフィルムからデジタルリマスターを行い、新たに日本語原文字幕を付けて上映します。

- 作品について：T&Kテレフィルム 03-3486-6881 ○スケジュール他：東京都写真美術館 03-3280-0099
○上映スケジュール：2011年3月5日(土)～4月1日(金)
○料金：【当日券】一般2,300円/学生、小中学生1,300円/障害者手帳をお持ちの方1,000円
○上映時間：10:30/12:30/14:30/16:30 ※詳細はホームページをご確認ください。
※木・金のみ18:30の回あり ※英語字幕版上映(3月29日(火)・30日(水) 18:30～)



Photo: Ian Buruma ©Marty Gross Film Productions, Inc.

Film 『イグジット・スルー・ザ・ギフトショップ』

ストリート・アーティストバンクシーがアート業界の裏側を映し出した、最高に皮肉、最高にユーモアのあるドキュメンタリー

LA在住の映像作家ティエリー・グエッタといとこのスペース・インベダーは、伝説的グラフィティ・アーティスト、バンクシーの取材を始める。ところがティエリーの才能のなさに気づいたバンクシーはカメラを奪い、自ら監督となってティエリーをMR. BRAINWASHというストリート・アーティストとして仕立て上げようとするが…。



- 上映スケジュール：2011年4月中旬～月曜休映(祝日の場合は翌日休映)
○上映時間・料金：未定
※詳細はホームページをご確認ください。

カフェ 『シャンブル クレール』

営業時間 10:00-20:00(日曜日は18:00まで)
◎お問い合わせ：Tel.03-5798-2218

ベルギービールとバニラアイスの相性は抜群!ベルギー定番スイーツ(ダムブランシュ)とブラウンエールビールとのマリアージュを是非お試しあれ。

ダムブランシュ 600円(税込)
サンフーヤンブリュワ 950円(税込)



ミュージアムショップ 『ナディッフ バイテン』

営業時間 10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)
◎お問い合わせ：Tel.03-3280-3279

机の上に置いておくだけで素敵なインテリアになりそうなカメラ型の鉛筆削りです。写真美術館オリジナルの鉛筆も一緒にどうぞ。

鉛筆削り 1,890円(税込) 鉛筆 100円(税込)



友の会 Support

展覧会のご招待・割引、1階ホールの上映映画や関連施設の割引など特典を多数ご用意して、皆様のご入会をお待ちしております。

年会費 個人会員 2,000円
家族会員(同伴者1名まで) 3,000円
シルバー会員(65歳以上の方) 1,000円

※受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
※会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問い合わせください。 Tel.03-3280-0099(開館時間中)

Table with 2 columns: 友の会特典, 特典内容. Includes items like 収蔵展・映像展 (無料), 企画展・誘致展 (割引), ミュージアムショップ (5%引き), and その他.

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

- 特別賛助会員: キヤノン株式会社, 株式会社資生堂, 株式会社ニコン, 株式会社キタムラ, キヤノンマーケティングジャパン株式会社, 大日本印刷株式会社, 東京電力株式会社, 凸版印刷株式会社, 富士フイルム株式会社, 株式会社リコー, 株式会社I&S BBDO, 株式会社アイテム, 株式会社薬プロモーション, 株式会社アサソー ディ・ケイ, 旭化成株式会社, 朝日新聞社, 株式会社朝日新聞出版, 朝日生命保険相互会社, アサヒビール株式会社, 朝日放送株式会社, 株式会社アシェット婦人画報社, アスクル株式会社, アップルジャパン株式会社, 株式会社アートよみうり, 株式会社アマナホールディングス, 株式会社岩波書店, 株式会社潮出版, 内田写真株式会社, 株式会社エース企画, 株式会社ADKアーツ, NECディスプレイソリューションズ株式会社, 株式会社NHKアート, NHK営業サービス株式会社, 株式会社NHKエデュケーション, 株式会社NHKエンタープライズ, 株式会社NHKグローバルメディアサービス, 株式会社NHK出版, 株式会社NHKビジネススクリエイト, 株式会社NHKプロモーション, 株式会社NHKメディアテクノロジー, 株式会社NTTデータ, 株式会社NTTドコモ, NTT都市開発株式会社, 株式会社エフエム東京, エプソン販売株式会社, エルメス財団, 株式会社大塚商会, オリックス株式会社, オリンパスイメージング株式会社, 株式会社オンワードホールディングス, 科研製薬株式会社, カンオ計算機株式会社, 鹿島建設株式会社, 株式会社角川グループホールディングス, カトーレック株式会社, カルピス株式会社, 株式会社キクチ科学研究所, キョーマン株式会社, 株式会社紀伊國屋書店, キハラ株式会社, ギャラリー小柳, 株式会社キューンコミュニケーションズ, 共同印刷株式会社, 一般社団法人共同通信社, 協和発酵キリン株式会社, 株式会社弘亜社, 株式会社講談社, 株式会社光文社, 株式会社国書刊行会, 株式会社コスモスインターナショナル, 株式会社コーセー, コダック株式会社, 株式会社ザ・アール, サッポロホールディングス株式会社, 産経新聞社, サントリーホールディングス株式会社, 株式会社サンライズ, 株式会社サンローズ, 株式会社ジェイアール東日本企画, JXホールディングス株式会社, ジェイティビー印刷株式会社, 株式会社シグマ, 株式会社実業之日本社, 信濃毎日新聞社, 清水建設株式会社, 株式会社写真弘社, 写真の学校/東京写真学園, シャンネル株式会社, 株式会社集英社, 株式会社主婦と生活社, 株式会社主婦の友社, 株式会社小学館, 松竹株式会社, 信越化学工業株式会社, 株式会社新潮社, 株式会社スタジオアリス, 株式会社スタジオエムジー, 株式会社スタジオジブリ, 住友化学株式会社, 株式会社生活の友社, セイコーホールディングス株式会社, 株式会社青春出版社, 積水ハウス株式会社, 株式会社セーファイ, セントラル警備保障株式会社, 全日本空輸株式会社, ソニー株式会社, 第一法規株式会社, ダイキン工業株式会社, 株式会社ダイケングループ, 大成建設株式会社, 有限会社タカ・インギャラリー, 高砂熟学工業株式会社, 株式会社宝島社, 株式会社竹中工務店, 株式会社タムロン, 株式会社淡交社, 株式会社丹青社, 株式会社中央公論新社, 中外製薬株式会社, 株式会社ティー・ビー・オー, 株式会社TBSテレビ, 株式会社テー・オー・ダブリュー, 株式会社テレビ朝日, 株式会社テレビ東京, 電源開発株式会社, 株式会社電通, 株式会社電通テック, 東亜建設工業株式会社, 東急建設株式会社, 東京ガス株式会社, 東京急行電鉄株式会社, 東京工科大学, 東京新聞・中日新聞社, 株式会社東京スタディオ, 東京造形大学, 東京総合写真専門学校, 東京テアトル株式会社, 東京都競馬株式会社, 株式会社東京ドーム, 株式会社東京ニュース通信社, 株式会社東京美術倶楽部, 東京メトロポリタンテレビジョン株式会社, 株式会社東芝, 東宝株式会社, 株式会社東北新社, 株式会社東洋経済新報社, 東洋熱工業株式会社, 株式会社徳間書店, 図書印刷株式会社, 戸田建設株式会社, トヨタ自動車株式会社, 株式会社ニコンイメージングジャパン, 日外アソシエーツ株式会社, 日油株式会社, 日活株式会社, 株式会社日経BP, 日産自動車株式会社, 株式会社日本カメラ社, 日本空港ビルディング株式会社, 日本経済新聞社, 日本興亜損害保険株式会社, 株式会社日本広告社, 社団法人日本広告写真家協会, 日本写真印刷株式会社, 社団法人日本写真家協会, 社団法人日本写真協会, 日本写真芸術専門学校, 一般社団法人日本写真作家協会, 社団法人日本写真文化協会, 日本大学芸術学部, 日本たばこ産業株式会社, 日本テレビ放送網株式会社, 日本ヒューレット・パッカード株式会社, 株式会社ニッポン放送, 日本ロレックス株式会社, 株式会社ニューアートディフュージョン, 株式会社博報堂, 株式会社バス・コミュニケーションズ, パナソニック株式会社, 株式会社林原生物化学研究所, 株式会社バラゴン

(平成23年2月現在・五十音順)